

ヒトが人間になるための 進化の歴史

帶刀益夫（東北大學名譽教授）

第1回 掲載をはじめるにあたつて

今月から帯刀益夫先生のシリーズ「ヒトが人間になるための進化の歴史」を掲載いたしました。ご期待ください。

現代のわれわれ人間の毎日の生活は、そのほとんどが、人間が作り出したものに依存しています。朝起きて食事をして、自家用車や電車で職場や学校へ出かけ、そこでは、書物を読み、パソコンを使い、工場では機械を操作して新しい製品を生産します。

農業や漁業のように自然と付き合っている人々も、人間が作り出した機械を使わずに活動することはないでしょう。

また、人々のお互いの付き

し、一人一人の生活は他の人と形成する社会に依存せずに生きることはできないでしよう。

人間は、思想、宗教、科学などを発展させ、この「文化」の力によって地球上で繁栄し、生活を謳歌していくます。また、共通の世界観をもち、ほかの生き物とは全く違う特殊で崇高な存在であると考えるようになりました。

しかし、細菌から植物、動物、そしてヒトまで、地球上のすべての生物はおよそ30億年前の始原的な細胞、

る地域で多様な文化的生活をしていますが、チンパンジーはアフリカの森の中に限定されて、15万匹が自然にのみ依存した生活を送っているのです。

では、人間はこの共通の祖先としての「サル」からどのようにして「ヒト」という種となり、さらに特別で崇高な地位である「人間」へ進化してきたのでしょうか。このような疑問は、ダーウィンの進化論が発表されてからずっと人々の興味を引いてきた疑問

**原水爆禁止 国民至
広島までつなぐ平和の
皆さん、ごいっしょに
大町→穂高ルート行進は7月5
午前9時に大町市役所を出發
入ります。**

た「遺伝子と文化選択」(新曜社)という本を出版しました。これから連載で、その无数次を説明していきますので、ご期待ください。

和大行進

行進です。

参加しませんか。

日(水)に行われます。

して常盤・松川経由で池田町に

集会を行い、55分に出発、ハーブ

「共謀罪法案」

発行責任者 太田 効 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
編集責任者 服部 久子 (62-4357)
山本 久子 (61-1066)

188号
2017年6月

2017年6月

部內資料

日本共産党 池田ファンクラブ・ニュース あした天氣にな～れ

なーにも考えていないくとも
犯罪者になるおそれがあ



しんぶん赤旗5月7日号

つ赤なバラには「情熱」との名があります。ロンドンのテムズ川では橋の色を黒から緑に替えたところ飛び降り自殺が3分の1に減少したとのことです。

国民の思想・良心の自由を侵す憲法違反の「共謀罪」法の採決が6月15日早朝の参院本会議で強行され、自民、公明、維新の賛成多数で可決・成立しました。

審議すればするほど疑問点や新たな論点が噴出し、さらには、森友・加計学園疑惑という国政私物化に国民の怒りがわき起るなか、追い詰められた安倍政権は、参院法務委員会での審議を一方的に打ち切り、本会議採決に持ち込む「中間報告」という禁じ

手を使つての異常な强行採決を断行しました。

ります。そうすると、公明党の議員が理不尽なことをやつたという印象が、視聴者に焼き付いてしまう。東京都議会議員選挙を控えているなかで、そういうことを公明党が嫌つたのです。そういう状況を回避してほしいという公明党の強い意向があり、委員会採決をやらずに本会議で採決するという流れになつたのです。」

ある党の思惑に配慮し、政権が十分な審議を行うことを回避したとしたら、議会制民主主義はどこに行つてしまつたのでしょうか。安倍政権打倒へ向け、さらに力を合わせていかなくてはなりません。

ムラ有明 あなたは何色が好き？
と、子どもに聞いたこと
はありませんか。小学校
入学時のランドセルなどはよい例
かもしません。6年間使用する
ものだから途中でいやにならない
色がいいのではと考えてしまうも
のです。▼色と心理状態には密接
な関係があります。赤は闘争心、
緑はやすらぎ、黄は明るさ、青は
冷静、桃色はやさしさなど一般的
に言われています。子どもの居る
周囲の色を少し気にしてみると面
白いものです。▼オリンピックの
年は赤が流行するというのはうな
づけます。ちなみにファッション
界では数年先の流行色が決まって
いてそれに向け業界が準備してい
くそうです。今年はブルー系らし
いので「冷静に判断し平和でおだ

また、人々のお互いの付き
いは多様な社会組織を形成

のすべての生物はおよそ30億年前の始原的な細胞から派

人々の興味を引いてきた疑問です。

午後2時30分に、役場へ到着し集会を行い、55分に出発、ハーブセンターで休憩し、終点の安曇追分駅まで行進します。

生き物であり、すべての生き物で共通の遺伝暗号を使い、細胞という基本的な生命単位体で生きているのです。人間は、生物学的には、ヒトという生物種として、他の生き物と基本的にまつたく違ひはないのです。

ヒトは、最も近いチンパンジーとの共通の先祖のサルから、600万年ほど前に分れ

ダーウィンの「種の起源」が1859年に刊行されたあと、同時代人であつたエンゲルスは、『自然の弁証法』のなかで、「ダーウィンによつてはじめて総合的に叙述され基礎づけられた進化学説が人間精神の前史までを基礎づけ、マルクスは、それにしたがつて人間の歴史がみずからを動かし発展させてゆく根本

そのエンゲルスは、「猿が人間になるについての労働の役割」（1896年）という短い論文で、「労働が人間を作り出した」として、「労働がいかにして生まれたかを、ダーウィンのヒトの先祖の生物学進化の歴史」の上から説明しようとしています。私は、これに沿って、ヒトが人間になるための発展の歴